

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (北海道)	良く なっている	通信会社（企画 担当）	お客様の様子	・窓口に来る客のうち、目の前の割引に飛びつく客を除けば、当社のサービスに対して高い評価をもらえるようになってきた。
	やや良く なっている	一般小売店〔土 産〕（経営者）	来客数の動き	・今月の20日ごろまでは、雨と寒さの影響で観光客の客足が鈍ったが、その後1週間は、晴れの日が続いたことで、月全体の売上は前年比106.4%となった。観光客の消費額は、消費税が上がったにもかかわらず伸びている。
		一般小売店〔土 産〕（経営者）	お客様の様子	・消費税増税直後に比べると、増税に対する客のアレルギーはかなり薄れてきており、客単価が増税前の水準に戻りつつある。
		一般小売店 〔酒〕（経営 者）	単価の動き	・売上の60%強を占めるビール類の販売が依然として低調であり、なかなか売上が増えてこないが、ここ数か月、高額のシャンパンやウイスキーなどが売れ始めてきており、多少は景気が回復してきている。売上全体としては、それほど良い数字ではないが、まずまずの業績となっている。
		百貨店（販売促 進担当）	単価の動き	・消費税増税以降、来客数の減少、買上率の低下が続いているものの、客単価が上がっている。特に特選ブランドや時計の客単価が上がっており、売上における前年比のマイナス幅が縮小してきている。
		衣料品専門店 （経営者）	お客様の様子	・6月から10月にかけて、豪華客船が毎週火曜日に寄港することになっており、延べ25隻の寄港が予定されている。メインストリートが外国人観光客でにぎわい始めているほか、消費税増税の影響も落ち着きを見せ始め、高額品が動くようになってきている。
		衣料品専門店 （店長）	それ以外	・気候が良くなってきたこともあり、客が明るい顔で買物をするようになり、明るい話も出てくるようになった。
		家電量販店（経 営者）	販売量の動き	・消費税増税の影響も一段落し、通常の状態に戻りつつある。客単価も上昇傾向にあり、趣味やし好性の強い商材が売れ始めている。
		家電量販店（地 区統括）	販売量の動き	・5月までは消費税増税前の駆け込み需要の反動の影響が大きかったが、6月からは若干回復傾向にある。また、5月末の異例の猛暑や6月初めからの記録的な長雨の影響でエアコンの需要が増えてきている。
		旅行代理店（従 業員）	お客様の様子	・相談の段階ではあるが、明らかに余暇に旅行をというビジネスではない問い合わせが増えている。
タクシー運転手 その他サービスの 動向を把握で きる者〔フェ リー〕（従業 員）	お客様の様子 来客数の動き	・問い合わせや見積依頼が少しずつ増えている。 ・本格的な夏を前に観光客が増加してきている。		
変わらない	商店街（代表 者）	単価の動き	・客が夏物を探しに来ている感はあるものの、気温が不安定なこともあり、単品買いが目立っている。また、早い段階からバーゲン待ちをしている客も多く、高額商材の購買もあまりみられない。全体的に単価の低い商材の1点買いが多く、客単価がかなり低下している。	
	商店街（代表 者）	お客様の様子	・値上げがあったにもかかわらず、客からは大した反応もなく、通常の状態が続いている。	
	商店街（代表 者）	来客数の動き	・6月初旬から中旬にかけては、消費税増税にともなう客足の減少が続いていたが、下旬に入ってから、当地の歩行者天国が始まった効果もあり、土日の来街者が増加している。道外からの団体観光客も、下旬に入ってから例年並みに回復しつつある。ただし、平日は地域住民の買物客のみであり、月全体としてはやや悪い状態が続いている。	
	商店街（代表 者） 商店街（代表 者）	来客数の動き お客様の様子	・消費税増税以降、4～6月と売上の回復はまだみられていない。前年の8割程度でとどまっている。 ・前回の消費税増税時に比べて、増税の影響が軽微だという人が多いことは一安心だが、業績回復まで至っていないことが心配である。ボーナス商戦も苦戦している。特に北海道の景気回復は本州に比べて遅いと言われることから、しばらくはこのままの状態が続く。	

百貨店（売場主任）	来客数の動き	・店舗全体の売上は前年比93%となっている。3月に大きく伸びた特選宝飾が前年比85%台と大きなマイナスとなっている。食品関連のみが前年並みに回復しているが、その他のカテゴリーすべてが前年比で10%前後のマイナスとなっている。来客数も前年比95%台で戻りきっておらず、定価品、セール品とも前年比で10%程度のマイナスとなっている。特に春夏商材において、消費税増税の影響を引きずっている。
百貨店（売場主任）	来客数の動き	・全国と比較して、来客数の減少が目立っており、当社比でも前年の8～9割の人数にとどまっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税増税の影響は徐々になくなりつつあるが、消費マインドが増税前よりも悪化している。客がより価格に厳しくなっており、品質を吟味する傾向がみられるなど、全体的に購買力が低下している。そのため、他店との価格競争が激化している。完全に消費が戻り、景気が上向くまで、あと数か月はかかる。
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・店頭売上の全体的な傾向をみると、消費税増税前の駆け込み需要による反動減は回復しつつあるが、米、飲料、調味料、酒類など、一部の商材で価格訴求が強まっており、これらの商材に対する消費者の財布のひもが徐々に固くなってきている。
スーパー（役員）	来客数の動き	・一部の商材を除き、消費税増税前の駆け込み需要の反動はなくなっているが、企画を打っても来客数の伸び率が低く、消費税増税分の3%が生活者の重荷になっていることがうかがえる。6月の売上を前年と比較すると、前年よりも土曜日が1日少ない状況のなか、全体の売上は前年を上回っているものの、消費税分を除いた金額では前年を1.5%下回っている。
スーパー（役員）	お客様の様子	・中元ギフト、七夕商材などが前年を下回って推移している。生活必需品以外の消費支出が増えているようには感じられない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・6月前半の降雨や低温により、1次産業において作業の遅れや生産量の減少がみられており、そのことが来客数にも影響している。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・6月にに関しては、長雨などの天候の影響で飲料水とビールの販売が不調である。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・高額商材を買う客の来店は一部でみられるが、中間層の来客状況が厳しい。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・来客数、売上ともに微増ではあるが前年を上回った。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・現在、自動車は購入や乗換えの検討対象外のようなのである。
乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・例年と比べて、土日のイベントの来場者が少ない。商談も長引く傾向にあり、受注率も低い。消費税増税後の物価上昇などが影響している。
自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・来客数は少しずつ前年並みに戻ってきているが、全体的にはまだ悪い状況のままである。先行きの予測も難しく、お盆時期までの動向は不透明である。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・消費税増税の影響から抜け出せない状態にある。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・消費税増税後も全体の売上は変わらずに推移しているが、実際には値上げとなっているため、その分、来客数が減っていることになる。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・全体の売上は前年を下回っているが、ランチの来客数は前年並みであり、顔なじみではない新たな客層も増えている。好調と言われている建設業界の利用はみられなかったが、夕食は予約の団体客が堅調であった。一方、全体的には、食材の価格上昇が響き、個人経営の宿や飲食店は厳しい状況が続いている。地方の観光地では、アジア圏の外国人客が多く、旅館や人気店が繁盛している。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・観光目的の一般団体客と外国人観光客の入込が堅調である。その一方で、個人客の入込は、ビジネス、観光ともに苦戦している。
観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・引き続き外国人客の需要は高いが、国内客の動きが鈍く、3か月前と比べて来客数などに大きな変化はみられない。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ビジネス、観光ともに航空機利用がやや増加の傾向を維持しているが、単価が前年よりもやや低下しているため、販売額は横ばいで推移している。

	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・客の動向や客単価、先行受注状況を見る限り、不透明な状態にある。
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・タイの政情不安、韓国の旅客船沈没などの影響のため、アジアへの出国者数が伸び悩んでいる。サッカーワールドカップの1次予選敗退の影響で客のマインドも悪い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・6月はYOSAKOIソーラン祭りなどのイベントがあったため、人出は良かったが、タクシー利用は前年と比べて増えていない。売上も前年比マイナスであった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・6月初めは売上が低調だった。その後は中央競馬開催などによってやや回復してきたが、3か月前と比較して、売上に大きな変化はなく、前年と比べてもほぼ同じであったため、景気は変わらない。
	パチンコ店（役員）	お客様の様子	・消費税増税及び原料コスト高の影響により商品価格が上昇しているなか、消費者の動向が上向いているという報道も一部で目にするが、すべての業界に当てはまる動向ではない。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・客の来店周期、商品の購買状況ともに前年と同じような動きとなっており、売上も前年並みで推移している。このような状況が当分続く雰囲気がある。
	住宅販売会社（役員）	お客様の様子	・以前ほど客が買い急いでいるわけではないが、分譲マンションの供給戸数が限られているなかで、立地条件の良い物件の集客は多く、依然として客の購買意欲は高いままである。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・高額品の動きが止まっている。3月までの消費税増税前の駆け込み需要の反動がまだ影響している。
	百貨店（役員）	販売量の動き	・消費税増税後、4～5月の状況が厳しく、当初は6月になれば上向くと期待していたが、実際には4～5月よりも厳しい状況になっている。長期間の悪天候も要因としてあるが、全体的に景気の回復感が感じられない。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・6月は販売量が前年比84%、売上が前年比87%となっており、消費税増税の影響が続いている。思っていたよりも消費回復に時間がかかっている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・平日の来客数は戻りつつあるが、土日の来客数が減少しており、売上の前年割れが続いている。
	コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・消費税増税後、飲料水やアルコールの売上が大幅に減少している。一方、たばこについては増税前の水準に戻っている。価格競争が少ない商品群については、前年を上回っているが、価格競争の激しい飲料水やビールが前年を下回っていることから、他店との競合が要因とみられる。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3か月前の3月は消費税増税前であり、今よりももう少し販売量が多かったため、全体としてはやや悪くなっている。ただし、明らかに持ち直してきている。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・原油価格の高騰により、石油製品価格が高止まりしており、客の節約志向が強くなっている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・観光客や地元客の入込が悪く、前月に引き続き、ランチ、ディナーとも満席にならない状況がみられる。ただし、客単価は前年を上回っているため、一概に消費税増税の影響とは言えない。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・観光シーズンだが、前年や前々年と比べて、観光客の入込が少ない。
	タクシー運転手	販売量の動き	・4～5月は若干の上向き傾向もみられたが、6月に入ってやや停滞している。人材確保が非常に厳しくなっていることに加えて、消費税増税による客の乗り控えが影響している。
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・6月は前半の長雨や霧といった天候不良が影響し、26日現在の売上は前年比85%にとどまっている。
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・3か月前は消費税増税前の駆け込み需要のピークだったが、今は動きが落ち着いている。
	悪くなっている	百貨店（売場主任）	お客様の様子

		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要のあった3月との比較では、増税後の反動減からの復調がみられない。来客数は回復傾向にあるものの、購買に結びついておらず、買上率、客単価ともに低迷している。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・高額商材の販売実績が伸び悩んでいる一方で、低価格帯の商材が比較的順調に推移している。このため、景気が上向いている実感は得られず、景気上昇を期待させるような動きもみられない。
企業動向関連	良くなっている	建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・公共工事や建設工事の発注が重なるなど、全体的には景気が良くなっている。ただし、労務者や職員不足から、官民間問わず、工事の入札で不落、不調も相次いでいる。
(北海道)	やや良くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上は増加傾向にあるが、それ以上に原料資材価格や燃料価格、電気料金、物流費、商品保管費、人件費など、ほとんどの原価が上がっているため、利益がどんどん圧縮されている。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事の発注がおう盛であり、緩やかながらも売上が伸びている。
	変わらない	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・製紙工場の生産が順調であるなど、本州向けの貨物輸送に消費税増税の影響はあまり感じられない。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・6月に入っても依然として荷動きが鈍く、メーカーにおける発注品の加工出荷に本来の勢いがみられない。メーカーの受注予測に不安要素は感じられないため、夏場からの受注バランスの回復を待つしかない。
		司法書士	取引先の様子	・消費税増税の影響から新築建物の受注が低迷していたが、若干の回復の傾向がみられる。一方で、一時的な動きともみえることから、予断を許さない状況にある。
		司法書士	取引先の様子	・消費税増税、食品の値上がり、ガソリン価格の高騰など、景気回復につながるような要素がない。不動産の動きも鈍い。
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・4月以降、受注量が横ばいで推移している。
	やや悪くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の影響が残っている。ただ、請負物件の需要は堅調に推移している。
		金融業（企画担当）	それ以外	・消費税増税の影響が残っている。住宅着工は反動減が続いている。多数の企業では、業種を問わず、人手不足にともない人件費が増加している。一方、大型小売店販売額のマイナス幅は小さくなっている。観光関連では、国内観光客は横ばいであるが、外国人観光客は大幅に増加している。
		司法書士	取引先の様子	・不動産の売買、住宅の新築が減少したままである。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・3か月前の消費税増税前の駆け込み需要があった時とは単純に比較できないが、駆け込み需要の反動で落ち込んだ2か月が過ぎ、ようやく回復基調になっている。
	悪くなっている	-	-	-
雇用関連	良くなっている	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・今まで来校することがなかった首都圏の1部上場企業が求人に来ることが非常に多くなっている。また、学内単独説明会と合わせて1次試験の実施を希望する割合が多く、地方の大学生に対する採用意欲が明らかに高まっている。
(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・3か月前に比べて、弊社の登録者が4割増加している。景気回復局面に入り、今まで就職活動をあきらめていた層も動き出したとみられる。求人数も1割ほど増えており、ミスマッチすることなく、就職につながることを期待している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から8.2%増加し、52か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から11.7%増加し、52か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部の業種では求人数の減少がみられるものの、全体としては労働力不足の傾向が続いており、求人数が増加している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月以降、求人数が減ってきている。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数は前年とほぼ同数である。地域柄か、派遣会社の季節要因の求人が増加する一方で、正社員の求人は横ばいか微減状態で推移している。

	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・春先比べると、求人数の伸び率が鈍化してきている。特に個人消費にかかわる業種の伸びが鈍くなってきていることから、消費税増税の影響による消費意欲の低下がじわじわと影響してきている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・企業の求人意欲は依然として堅調であるが、伸び続けてきた求人件数に頭打ち感が出てきた。特に製造業の求人が減少してきている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年比118%と伸びている。派遣、小売、運送の上位3業種がいずれも前年から2～3割の伸びを示しており、全体の売上をけん引している。非正規の雇用環境は引き続き良好といえる。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・5月の新規求人数は前年比で6.7%の減少となった。新規求職者数は前年比7.8%の減少となった。月間有効求人倍率は0.75倍となり、前年の0.68倍を0.07ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち、正社員の求人の占める割合は45.3%と相変わらず低く、求人者と求職者の間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・人手不足の状況にあることに変わりはないが、春先と比べて求人数の伸びが落ち着いてきている。
	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・5月の就職件数が3か月連続で前年を下回っている。
悪くなっている	-	-	-